

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (言葉) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2134
2. 授業担当教員	坂本 真理子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本科目では、領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身につける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「言葉」の内容と意味を理解する 2. 乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解する。 3. 乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の援助を理解する。 4. 領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、子どもの言葉を育てる保育実践の力を身につける。 5. 言葉をめぐる現代社会の現状と課題を理解し、保育者の役割の理解を深める。 6. 児童文化財 (絵本や紙芝居、パネルシアターなど) の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を考察し、実践力を高める。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	期末レポート課題：授業で学んだことを踏まえ、乳幼児期における言葉発達段階の特徴をあげ、その時期の保育者の援助・役割についてまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 内藤知美・新井美保子 (編著) 『コンパス保育内容言葉』、建帛社。 必要に応じて授業内でプリントを配布する。</p> <p>【参考書】 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成 29 年 3 月告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「言葉」の内容と意味を理解し、説明することができる。 2. 乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解し、説明することができる。 3. 乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の役割を理解し、説明することができる。 4. 領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、授業発表等で実践することができた。 5. 人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、言葉をめぐる現代社会の現状と課題を踏まえ、保育者の役割の説明することができる。 6. 児童文化財 (絵本や紙芝居、パネルシアターなど) の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を保育実践にむけて考察、立案することができる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度と学習目標への到達度 (積極的参加、課題への取り組みと提出、授業後の記述内容により加点) 40% 2. 提出課題 (絵本やわらべうた等の収集と教材ノートの作成) 30% 3. 期末試験 (言語発達や保育者の役割に関する筆記試験) または期末課題 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	子どもは大人との関係を基盤にして言葉の世界を広げていく。乳幼児期に言葉の美しさや楽しさに気づき、言葉に対する感覚を豊かに育てていくためには、保育者自身が言葉への豊かな感覚をもっていることが望まれる。授業では、実際の事例や映像等を使用し、ディスカッションを行いながら、子どもの姿を通して言葉の面白さや役割について考え、言葉に対する感覚や想像力を育むための具体的な援助や指導について考えていく。予習、復習、質疑を含め、授業内での積極的な発言、グループワークの積極的な協働・参加を期待する。授業内でのリフレクションシートでは、気づきや疑問等を自身の言葉でまとめるよう努め、相手にわかる文章を心がけること。レポート及び提出物の提出日は厳守すること。		
13. オフィスアワー	別途、通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	人間にとっての言葉の意義と機能	事前学習	「言葉」からイメージすることを考えておく。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、人間にとっての言葉の意義について自身の考えをノートにまとめる。
第 2 回	現代社会における言葉をめぐる課題	事前学習	現代社会における言葉をめぐる問題や課題について、関心のあることの新聞記事を用意する。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、現代社会における言葉をめぐる課題を整理し、幼児教育の役割について自身の考えをまとめる。
第 3 回	領域「言葉」のねらいと内容と基本的理解	事前学習	領域「言葉」のねらいと内容を読み、関心のある箇所を探す。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、指導上の留意点について理解し、自己課題をノートにまとめる。
第 4 回	子どもの言葉の発達過程① (乳児期)	事前学習	誕生から約 1 年間の言語獲得について、実習体験や身近な子どもの観察等を通して関心のある事象を整理しておく。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、乳児期の言葉獲得について、保

			育者の役割をまとめる。
第5回	子どもの言葉の発達過程②（幼児期）	事前学習	幼児期の言語獲得について、実習体験や身近な子どもの観察等を通して、関心のある事象を整理しておく。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、幼児期の言語獲得について、保育者の役割をまとめる。
第6回	コミュニケーションとしての言葉と書き言葉（文字）との出会い	事前学習	保育実践の中で、子ども同士がどのように言葉を使用していたか、また、子どもが文字に関心をもっていた事例や環境について、具体的に整理しておく。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、非言語コミュニケーションとしての言葉及び、文字等への関心と書くことへの興味について、保育における環境や保育者の援助について自身の考えをまとめる。
第7回	言葉に対する感覚とは何か 言葉の美しさ、楽しさを感じる（演習）	事前学習	子どものつぶやきや会話の事例を整理しておく。
		事後学習	本日の授業を通して、乳幼児の言葉の世界観や想像性について自身の考えをまとめる。
第8回	子どもにとっての児童文化財の歴史と意義（教材研究）①絵本と紙芝居 （情報機器及び教材の活用法について学ぶ）	事前学習	好きな絵本と紙芝居を用意し、ブックトークの準備を行う。
		事後学習	絵本と紙芝居の教材について、ブックリスト（課題）の作成を行う。
第9回	言葉を育て想像する楽しさを広げる「児童文化財」の実践と教材研究（演習） （情報機器及び教材の活用法について学ぶ）	事前学習	関心のある児童文化財について、教材研究を行い、指導案の作成しておく。
		事後学習	パネルシアター、パペット、ペープサートなどの特徴を理解し、子どもが言語活動を実施する場合の過程と計画を立案する。
第10回	指導案作成とグループ制作	事前学習	グループ毎に児童文化財を決め、指導案を作成し、模擬保育の準備を行う。
		事後学習	修正、改善を図り、模擬保育の発表にむけて準備を整える。
第11回	模擬保育の実施と評価 保育における評価について考える	事前学習	模擬保育の発表の準備を整える。
		事後学習	模擬保育を踏まえ、保育における評価に基づいて振り返り、気づいたことを整理する。
第12回	模擬保育 言葉に対する感覚を豊かにする環境構成と援助 ①乳児期	事前学習	わらべうたについて調べ、発表の準備をする。
		事後学習	乳児期のことばと援助について、環境構成と援助の留意点について自身の考えをまとめる。
第13回	模擬保育 言葉に対する感覚を豊かにする環境構成と援助 ②幼児期	事前学習	関心のある保育実践の記事を探し、準備する。
		事後学習	言葉に対する感覚を豊かにする環境構成と援助について、自身の考えをまとめる。
第14回	特別な配慮を要する幼児の言葉の支援	事前学習	言語障害の定義と種類について調べておく。
		事後学習	保育の場での早期発見と具体的な援助、支援体制について、自身の考えをまとめる。
第15回	保幼小の接続と領域「言葉」	事前学習	領域「言葉」のねらいと内容を踏まえ、伝え合う言葉について自身の考えをまとめておく。
		事後学習	幼児教育の独自性を踏まえ、スタートカリキュラムへの接続にあたって求められる保育者の役割について自身の考えをノートにまとめる。